

令和5年度第3回高知県食育連携推進協議会 議事要旨

日時：令和6年1月19日（金）午後2時～午後4時

場所：高知城歴史博物館1階ホール

方法：対面とオンライン（Zoom）の併用開催

出席者：出席8名、代理出席1名、事務局11名

○協議事項

- (1) 第4期高知県食育推進計画（案）について
- (2) 高知県食育推進計画の推進に関する令和5年度の取組及び令和6年度の取組（案）について

○議事等概要

- (1) 第4期高知県食育推進計画（案）について

事務局から資料1、資料2をもとに第4期高知県食育推進計画計画（案）及び概要版について説明を行った。

[内容等]

■第4節 食を育む環境づくりについて

- ・事務局から、「食育に関心を持っている県民の割合」の目標値について、高知県食の安全・安心推進協議会において、現状に合った値とした方が良いのではないかとの意見が出されたことを報告したうえで、少しずつ増加はしているが、第3期の評価を踏まえ、次期計画の目標値を全国平均値以上に変更したい旨を提案した。
- ・委員から、出発となる数値を明確に示さないと、どこを目指して取り組んでいけばよいか分からないため、全国平均値以上という表記を分かるようにしてほしい。また、高知県の食育推進計画が全国と比べて何が違うのかという特色がないと、なぜ全国平均値以上を目指すのか理解できない。例えば、高知県はおいしい食材や食文化を楽しむ環境にあるから全国平均値以上を目指すなど強みを伝えることで、食育に関心を持ちましようとして積極的に啓発できるのではないかとの意見があった。
- ・事務局から、現状値の欄に全国値を括弧書きで示したうえで、目標値の欄に全国平均値以上と明記すること。また、高知県は健康指標が全国より低い状況が続いていることから、よさこい健康プラン21ではまずは県民の健康指標を全国平均値以上とすることを目標としている。食育についてもそれに連動する形で子どもの健康指標についてもまずは全国平均値以上を目標とし、健康的な生活を送れるよう取り組んでいきたい旨を回答した。

⇒第4期高知県食育推進計画（案）を本協議会で承認する。

(2) 高知県食育推進計画の推進に関する令和5年度の取組及び令和6年度の取組(案)について

事務局から資料3をもとに、第1節から第4節までの令和5年度の取組及び令和6年度の取組(案)について説明を行った。

[内容等]

■第1節 高知家の未来を担う子どもの食育の推進

- ・委員から、昨年度までは、子ども達に給食時間中は話をしないことと、給食を食べ終わっても静かに待つことを徹底して指導してきたが、今年度は感染対策とマナーに気をつけながら食事の楽しさを実感できるような取組も行っている。子ども達は令和2年度から令和4年度の3年間、黙食で給食を食べることが多く、他者と食事を一緒にする機会が少ない状況にあったが、アフターコロナになって色々な人たちと食べる機会が増えた一方で抵抗を感じている子ども達もいるため、県学校栄養士会では、今年度の夏休みに日本会食恐怖症克服支援協会から講師を招き、食べられない子ども達が楽しく食べられる給食指導や声掛けなどを学んだ。また、学校が一丸となって食育に取り組めるよう、校内研修等で共有を図っている。併せて、栄養教諭が作成した朝食を中心とした望ましい生活習慣の定着を指導するICT教材を県下全ての先生方に活用していただけるよう学び箱に掲載している。
- ・委員から、昨今の物価高騰の影響を受け、学校給食が大変厳しく、魚については単価が高く給食に活用しづらい状況にあるため、先ほどの水産業振興課から報告があった地域の鮮魚店と連携した学校給食の場を利用した調理等の体験学習というのはどのような事業なのか知りたい。また、近年の物価高についても協力をお願いしたいとの意見があった。事務局から、調理等の体験学習は、昼前の授業で鮮魚店が取り扱っている魚の特徴や高知県の漁業について講話し、給食に授業で取り扱った魚のメニューを入れ、給食時間に子ども達に食べてもらうという流れであること。物価高への対応については、県としても漁協や鮮魚店と協力して可能な限り、地元の魚を給食に取り入れられるよう取り組んでいきたい旨を回答した。

■第2節 健康長寿を実現する食育の推進

- ・委員から、県栄養士会の令和5年度の取組として、歯科医師会と連携しロボートの馬場裕之氏を講師に迎え、県民公開講座を開催した。定員を上回る応募があり多くの県民の方に啓発できたことと、令和6年度は歯科医師会、歯科衛生士会と連携し、県民に向けて啓発する取組を企画している旨の報告があった。

■第3節 持続可能な食の理解と継承

- ・委員から、魚食調理実習について、魚と一緒に農産物も活用していただくことを今後検討してもらいたい旨の意見があった。

- ・事務局から、農業や水産業などの一次産業の連携が必要だと考えており、情報共有しながら連携できることがあれば考えていく旨を回答した。
- ・委員から、子ども達は自分達で料理を作ると今まで全然食べられなかった物を食べることができ美味しいと喜ぶ。生産者も学校等、地域に出向いて行って、地元の農産物を使った料理を伝えていきたい。直販所については、地元の生産者と外から入ってくる農産物が同じにならないよう配慮してもらっているが、直販所の売上にも関わってくるため、生産者も努力していきたい。食文化の継承については、例えば個々の地域で作られている味噌等はどうやってできているのかといった子ども達の身近にあるものから伝えていきたい旨の報告があった。

■第4節 食を育む環境づくり

- ・委員から、令和5年度の取組について報告を受けたが、目に見えるような成果は出ておらず、ライフスタイルの変化やデジタル化など世の中が変わっていくなかで、食文化の継承など、大きくかけ離れていっており、これをどうやって埋めるか、日々悩ましく感じている。ボランティア活動を行う中で、若い人を集めて高齢者との接点を設けているが、食事のなかに食文化が入ってこないもどかしさがある。連携は本当に大事だが、もう少し踏み込んだ連携のあり方を活動の中で日々模索しているところ。その中で、高知信用金庫の100周年企画で「奇跡の美食学」が生産現場から食べるところまで、とてもわかりやすい内容となっており、このような内容等を様々に発信し連携することが重要ではないかと考えている。食育の目標値については、今までの目標値を維持したいところだが、維持するには取り組むポイントが難しくどうしたらよいか悩みが深い状況であるとの意見があった。
- ・委員から、栄養士や管理栄養士の養成に従事する中で、学生は食文化の継承についての情報収集や必要性を理解することはできるが、実践に至るかどうかは難しいと考えている。私たちの世代は食文化を伝えることを大切に思っているが時代はどんどん変わっているため、若い人の意見を取り入れて対応していく必要があると感じているという意見があった。
- ・委員から、水産や農業の方が学校に入り食育活動をしているが、子ども達が体験することは非常に大切なことで、子どもの頃に体験したことは生涯を通じて記憶に残っている。このことから県内の全ての学校の子どもが一度でも体験できるよう実施する学校に偏りがないように連携して取り組んでほしい旨の意見があった。事務局から、ヘルスマイトが学校での健康教育を行う取組では、今まで入れていなかった学校においても実施ができるよう教育委員会と連携した取組を進めている。農業や漁業についても広く周知しより多くの学校で取り組めるよう進めている。食を通じた健康づくりの取組として、子ども達に一度でも食に関わる体験をしてもらえるよう、教育委員会をはじめ関係課と連携し、体験学習を継続していきたい旨を回答した。

- ・委員から、ICTを活用し指導の成功例を別の学校で展開できると考える。例えば、学校の様子動画などを別の学校に持って行き、自分たちが体験したことやどうやったらできるかなどについての展開や個別指導についても成功事例や改善できたこと、子ども自身が食べることを考えられた例を挙げ、それを他校で活用する等に取り組んで欲しいとの意見があった。
- ・事務局から、今年度から朝食に課題のある学校を抽出してICT教材や給食時間を使い介入を行っている。取組により数値がどれくらい上がったかの検証はこれから行っていくこととしている。また、成功した例を皆で共有し、横展開していきたい旨を回答した。

■了承事項について

- ・第4期高知県食育推進計画の原案が了承され、パブリックコメントを行うことについても了承された。

パブリックコメントの意見を踏まえた修正については、軽微な修正であれば、会長に一任し、会長と事務局が協議のうえで修正することが了承された。また、協議が必要な場合は協議会での協議を依頼することについても了承された。

以上で会議を終了した。